

第4回中野区子ども・子育て会議(第5期) 議事録

【日時】

2022年5月25日(水) 19時00分～21時00分

【場所】

区役所7階 第9、10会議室

【出席者】

(1)出席委員 12名

寺田会長、和泉副会長、阿部委員、萩原委員、加賀谷委員、永田委員、三次委員、
中村委員、上村委員、大橋委員、角田委員、丸茂委員

(2)事務局 8名

子ども教育部長

子ども家庭支援担当部長

子ども教育部課長 3名

子ども・教育政策課子ども政策調整係 3名

【会議次第】

1 開会

2 議題

(1)中野区基本構想、基本計画について

(2)若者支援について

・萩原 建次郎先生による講義

・中野区における若者支援について

・グループディスカッション

3 その他

4 閉会

【配付資料】

資料1-1 中野区基本構想

資料1-2 中野区基本計画【概要版】

資料2-1 若者支援をめぐる論点(萩原建次郎先生)

- (別添) 令和3年版子供・若者育成支援推進大綱概要
資料2-2 中野区における若者支援に関する取り組み
参考資料1 第5期第3回子ども・子育て会議の議題に係る意見・質問及び回答
参考資料2 第5期中野区子ども・子育て会議スケジュール

午後7時00分開会

事務局(子ども政策担当課長)

会議の開催に先立ちまして、事務局からご報告いたします。本日は12名の委員の方にご参加いただいています。関委員、大門委員、岡見委員が欠席となっております。中野区子ども・子育て会議条例第5条に基づきまして、会議は有効に成立しております。参考資料2として子ども・子育て会議のスケジュールをつけておりますが、本日は、若者支援としまして、萩原委員にご講義いただき、重点的に若者支援について審議を行いたいと思っております。次回につきましては、子どもの権利をテーマに、中野区子どもの権利救済委員の野村先生からご講義を予定してございます。それでは寺田会長、進行をよろしくお願いいたします。

寺田会長

皆様こんばんは。これより第5期第4回中野区子ども・子育て会議を開催いたします。皆様におかれましては、お忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日の議題は2件となっております。

それでは、議題1「中野区基本構想、基本計画」について事務局からご説明をお願いいたします。

《資料1-1、1-2について説明》

寺田会長

ありがとうございます。ただいまの議題について何かご意見、ご質問等ございますか。

丸茂委員、お願いします。

丸茂委員

ご説明ありがとうございました。質問なのですけれども、児童福祉法が改正になったと思うのですが、その内容を見ていましたら、中野区基本構想、基本計画を後押ししてくれるような、学齢期以降の子どもたちのサポートについて、ぐっと踏み込んだ内容が書かれていると思いました。例えば、「既存の児童養護施設、児童館、児童家庭支援センター等子育て関連施設や空き家や賃貸物件を活用して実施することも有効であると考えられることから、改修費につ

いても補助対象とした上で、制度施行までの間、補助率を通常の整備費よりも嵩上げて集中的に支援する」というようなことも書いてあります。中野区として、改正されたものに関してどのように捉えているのでしょうか。

事務局(子ども・若者相談課長)

児童福祉法の改正につきましては、いくつか内容があったかと思います。今回の改正の内容としましては、お子さんに対する支援を継続して行うということで、子育て世代包括支援センター、中野区では今、すこやか福祉センターが担っているところになりますけれども、こちらと子ども家庭支援センター、市区町村子ども家庭総合支援拠点、こちらの一体化というところがまず一番大きなところになります。中野区につきましては、すでに児童相談所を4月に開設しておりますので、児童相談所と子ども家庭支援センターを一体で運営しているところですが、母子保健、子育て世代包括支援センターも含めて、こういった形で運営していくのかということにつきまして、施行が令和6年度になりますので今後検討していきたいと考えてございます。お話がありました補助の関係ですけれども、今年度児童相談所を開設し、児童養護施設などにお子さんをお預かりいただくという形で運営を行っているところでございます。中野区内には児童養護施設が1か所、乳児院が1か所あります。東京都の場合には都内どこの施設でも使えるシステムになっておりますけれども、お近くで生活していただくというメリットもありますので、中野区としてこういった形で補助を行っていくのか、誘致していくのか。このあたりにつきましても、具体的にはまだ始まっているということはございませんけれども、今年度児童相談所を設置しておりますので、その辺も含めて今後検討していきたいと考えてございます。

寺田会長

ありがとうございました。他にはよろしいでしょうか。

それでは次に、議題2「若者支援」について議論するにあたり、萩原建次郎先生からご講演いただきます。萩原先生どうぞよろしく願いいたします。

《萩原委員による講演 資料2-1》

寺田会長

ありがとうございました。では、ただ今の萩原先生のご講演について、何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

和泉委員、お願いします。

和泉副会長

先生のご講義を聞いていて、ここに並んでいる有識者の皆さんのフィールドをうまくつなぎ合わせる有意義なご講演だったなと思いました。いわゆる産業社会で、色々と有用な人材が必要になってしまっている中で、ある程度こぼれ落ちてしまったり、支援が必要な人たちがいる。関係の貧困、経験の貧困というキーワードがございましたけれども、子どもたちの育ちの中で、そのあたりは、乳幼児を専門にされている寺田会長は、幼児教育のところでとてもお考えになっていることそのものを指していらっしゃる。それがさらに中高生にも繋がってくる話だというふうには受け止めることができました。その意味で私にとってもとても新鮮な内容でした。本当にありがとうございました。これに関して私の経験も絡めてお話させていただくと、コロナ禍で2年ほど、学生たちも引きこもりになってるというか、家でリモート授業を受けてきたという経験をしてきたわけですが、その中でも、オンライン関係なく活動していた若者もいれば、オンラインに色々な活動の場を移してコミュニケーションを図った学生もいる。私が持っている授業の中で、社会保障の授業ではあるのですが、コミュニティの関わりという中で色々な側面を考えるという授業があって、その授業の終わりに、学生たちに、「あなたは今、いくつのコミュニティに属してますか」というアンケートを取ってみました。すると、一番少ない学生が2つくらい。多い学生は6、10とか。自分の趣味のサークルがある、中高のお友達との関係性がある、あるいは地域の人たち、ずっと住みなれたまちでコミュニティがある、あるいは最近だとSNSで繋がった趣味の友達がいる。こういうような色々な形のコミュニティがあるのですが、こういったコミュニティにいくつ属しているか、という観点というのは、今若者支援ですごく大事なことで、それが意味行政も含めた地域主導で、居場所づくりという形で、もう一つ新たなコミュニティを提供できるとしたら、それはとても素晴らしいことなのではないかと思いました。

寺田会長

和泉先生ありがとうございました。他にいかがでしょうか。それではこのあとにまた皆さんとディスカッションしていただく時間もございますので、その中でお話をいただければと思います。

それでは次に、「中野区における若者支援に関する取り組み」について、事務局からご説明をお願いいたします。

《資料2-2について説明》

寺田会長

ありがとうございました。それでは、少しお時間があるので、萩原先生に感想を含めて最後

にコメントをいただきたいと思います。

萩原委員

これから本格的に中野区さんも若者支援に取り組まれるということで、非常に期待したいと思っているのですけれども、若者たちの参画、参加だけではなくて社会参画という視点が入っているところは重要で、とりわけ中学、高校生以上になってくると、より一層実社会への関心や近未来に対して自分はどう生きたいのか関心が高まってくる時期ですから、やはり実際に社会の一端を自分たちが担っている、また、自分たちの発案を、社会で大人も聞いてくれるというのは、非常に自信にもなっていくわけです。また第3の大人、多様な大人との触れ合い、あるいは少し年上の若い大人、社会人とも出会っていくというのは、彼らにとってとても大事な場になっていると思います。それと、子ども・若者支援センターがオープンされて、これから本格的に稼働させるということで、先日も現場を見させていただきました。最後に皆さんにお見せした、若者支援の場のありかたのイメージというのは、子ども・若者支援センターを起点にしながらこんな場になったらいいのではないかなということで、書かせてもらいました。子ども・若者支援センターと同じ建物の中に図書館があります。図書館の中に、ティーンズコーナーというのがあって、そこに壁一面ホワイトボードがある。そこに子どもたちも、中学生、高校生も自由に書いたり、落書きしたりしている。そこにヤングアダルトコーナーというものもある。ヤングアダルトコーナーというのは、思春期以降の、ちょっと大人になりたいなと思っている若者たちに特化した、様々な仕事の本、働くことについての本であるとか、思春期ならではの色々な悩みに関わるような本などがたくさんそろっている。こういうヤングアダルトサービスもこの図書館はやっていて、図書館と子ども・若者支援センターが同じ建物ですので、容易に行き来することができる。そういったところと、児童館、プレーパーク、子ども食堂、社会福祉協議会、若者サポートステーション、大学、専門学校、あるいは商店街、企業さんとも連携していく。ここをプラットフォームにしながら、色々な社会チャレンジが可能になっていくのではないかな。そんな期待を込めてこのようなシートを作ってみました。何か参考になればと思います。以上です。

寺田会長

ありがとうございました。

事務局(子ども・教育政策課係長)

それでは、先ほどの萩原先生のご講演と中野区の実践に関する説明を受け、委員の皆様にご意見を伺う機会を設けたいと思います。40分程度で若者支援に取り組

むために必要なことや課題だと思われること等について、ご議論をお願いいたします。

《グループディスカッション》

事務局(子ども・教育政策課係長)

それでは時間になりましたので、グループで出た意見を発表していただきたいと思います。
B グループからお願いいたします。

萩原委員

Bグループは色々な視点で話が出ました。なので一貫してこれというわけではないのですが、いくつか紹介したいと思います。例えば、先日NHKで、墨田区中学生区議会という特集があったそうです。そこでは中学生の子どもたちが、防災だとか地域課題を議論している。また、中学校内に学童クラブが併設されていて、中学生が小学生の世話役をやっている。そういう話だったそうです。中学生が子どもたちをお世話しながら、自分たちも一緒になって地域社会を作っていきたい、社会の担い手になっていきたいという話も出てきていて、お互いの世話をしたりされたりという中で、結構しっかりとしているという話も出ました。また前回の貧困のときも同じ視点だったのですが、第3の大人がやはり大事だと。縦の関係と横の関係に対して斜めに関わってくれる第3の大人がすごく大事で、中野区では児童館の先生が大体そういう第3の大人として、地域のことや家庭のことをよくわかってきている。そういう大人が身近にいてくれるということがすごく大事だという話になりました。あと上村委員から、「こどもほっとネット in なかの」というパンフレットをご紹介いただきまして、本当に中野区には様々な子ども食堂や無料塾だとか、ネットワークがたくさん存在していて、こういう方たちが手を携えている。また、中野区は「子どものため」というとすごく寄付が集まるとおっしゃっていました。これは中野区の良さだという話にもなりました。そういう中で、支援の受け手ばかりではなくて、逆に担い手になるということもあろうかと思えますし、そういう多様な居場所が繋がって、お互いにどっちがどっちではなく、お互い様で支え合っていくような地域コミュニティも描けるのではないかという話も出ました。あとオープンしたばかりの子ども・若者支援センターについて、現在どのような相談内容とか、件数が来ているかという質問もありまして、まだ件数自体はそんなに多くはないのですが、家庭のこと、仕事のこと、友人のことで、友達の中で話せそうなレベルのことも結構相談に来ているという話が出ました。中野区の子ども・若者支援センターだけではなくて、NPOさんとかが、子ども・若者のための相談や事業をやっている中で、やはり結構な件数が集まっている。逆に言うと、それだけ身近にちょっとした相談ができる人間関係が欠けてしまっているのではないか。これは1つ

の関係の貧困表れでもあるように思いました。B グループは以上です。

事務局(子ども・教育政策課係長)

ありがとうございました。では、A グループお願いします。

寺田会長

A グループは色々なご意見が出ました。まず、子ども・若者支援センターの相談について、電話相談だけでなくメール相談もできるのかというご質問があり、現在、メールでの相談受付は原則行っていないということで、今後受付方法を検討するとのことでした。それから、自習室が増えてきているということも伺い、それをさらに皆さんが活用していく場があるといいのかなと思いました。自習室が増えてきていることなどを私たちがそれぞれ地元に戻って PR して、皆様が広告塔になって広めていただくのがいいのかなというふうに感じています。それから、運動施設等について、子ども自身で申し込むことができるようにしてほしいというご提案がございました。これは区の方で持ち帰って検討して下さるそうです。また、ハイティーン会議で出た意見などが校長先生に伝わっていないという現状があるということで、この子ども・子育て会議の場に小学校の校長会、中学校の校長会の代表の先生に来ていただいて、私たちはこういう意見があるということをご提案させていただき、また学校の現状はどうなのかということをお話しいただくような機会がつかれないだろうかというような話がございまして、区の方でご検討いただけるということでした。A グループは以上です。

事務局(子ども・教育政策課係長)

ありがとうございました。では、C グループお願いします。

和泉副会長

C グループは、町会連合会の中村委員にご参加いただきました。子育て支援というものについて取り上げる会ではあるのですけれども、地域の代表としてご参加いただいて、まず最初のご発声は、子どもの姿を見ない、どこに子どもがいるのか、ということでした。そういう地域も点在している。まちづくりで、ニュータウンの理論というのがあるのですが、ニュータウンというのは大体同世代の人たちが同時期に入居されるので、戸建ても含めて一斉に年代自体が高齢化する。すると子育てをしている人が周りに誰もいないという地域ができ上がってしまう。それが適度に入れ替わるような地域ですと、子育て世代がずっとどこかで残っているということが起こるのですが、中野区内では、今子育て世代がたくさん入っている地域もあれば、随分前に子育てを卒業しました、という方が多い地域もある。ただその辺がまばらになっていて、なかなか話がかみ合わない部分もある。今日の話題でいうと中高生くらいの子たちはどこに

住んでいるのだろうかという話がありました。お祭りとかやれば小さい子連れの世帯とかは来てくれる。中学生ぐらいはコンビニのイートインスペースあたりにたまっているかもしれない。こんなご指摘もありました。ただ、なかなか地域の施設を利用するような中高生の姿はあまり見かけないというお話もありました。世代間交流は、やはり同じ地域に住んでいてもあまりないというご指摘もあって、例えば、高齢者会館の中に子連れの世帯に入ってきてもらうとか、そういう仕掛けや工夫があれば、もう少しうまく進むのではないかという話がありました。また、今、中学受験が盛んで、多分区内の小学生の半分ぐらいは中学受験を経験して、そのうち4割が区立中学以外に進学していくという状況が起こっている。もちろん中野区内にある私立の中学、高校に他の地域から入ってくるという方もいるのですけれども、中学生は今どこで過ごしているかということ、自宅か学校が塾だと。なかなか地域の居場所がない。また、そこに居場所があっても、もしかしたら来ないかもしれない。現状から見ると、結局は自宅か学校か塾かということで、中学生、高校生は忙しいという話になりました。あと、他のグループで出なかった話題かもしれませんが、この4月から18歳成人というのが始まりました。18歳というのは高校3年生のどこかの時点になります。選挙権自体はもう始まっていて、例えば、先日の区長選も、この4月、5月に誕生日を迎えた高校3年生は投票に行った。でもそれよりも後の生まれの人たちにとっては、人ごとのように過ぎていった。このように18歳というのが一つの切れ目として、責任能力を持たされ、成人という形になってくる。18歳にきちんと大人としての自覚を持たせるための支援というのも、若者支援の新たな視点として必要なのかなという話もありました。

寺田会長

ありがとうございました。それぞれのグループから大変有益なご意見をいただけたと思います。

それでは、本日の議題・報告は以上で終了となります。

次に、その他、何かございますか。

事務局(子ども政策担当課長)

参考資料1として、前回の子ども・子育て会議のあとに委員の皆様からいただいた意見、質問をまとめていますので、ご紹介させていただきます。

《参考資料1について説明》

寺田会長

ありがとうございました。

その他、何かございますか。

上村委員

萩原先生から「こどもほっとネット in なかの」は紹介していただきました。もう1つ、ひきこもり相談ということで、チラシを配布させていただきました。社会福祉協議会として4、5年ひきこもり当事者の親の会を支援してまいりましたけれども、中野区から、下期より、ひきこもり支援事業ということで委託を受けましたので、専用ダイヤルと、裏面にフルネームで担当者を紹介しております。メールでも受け付けをしております。以上でございます。

寺田会長

ありがとうございました。

最後に、次回の日程について、事務局からお願いいたします。

事務局(子ども政策担当課長)

次回の会議は、6月16日木曜日の19時開始を予定しております。詳細につきましては、改めてご連絡いたします。

また、中野区町会連合会の推薦でご参加いただいております中村委員が、5月末をもって町会長を交代されることになりましたので、本日が最後になります。中村委員から一言いただきたいと思います。

中村委員

このたび、町会長を交代することになりました。私は3年くらい関わらせていただきました。色々勉強になりました。ありがとうございました。

事務局(子ども政策担当課長)

中村委員は第4期から子ども・子育て会議委員としてご尽力いただきました。本当にありがとうございました。次回からは、別の方がご参加されますので、またご紹介したいと思います。

寺田会長

中村委員、どうもありがとうございました。このあとも引き続きこの子ども・子育て会議を応援していただきたいと思います。また何かありましたらお声を掛けさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

それでは、第5期第4回中野区子ども・子育て会議を終了いたします。遅い時間になりましたので、皆様どうぞお気をつけてお帰りください。

午後9時00分終了